

第11回競基弘賞授賞者決定と授賞式開催のご案内

特定非営利活動法人 国際レスキューシステム研究機構(神戸市長田区二葉町7-1-18 会長:田所諭)はレスキュー工学を担う若手研究者・技術者を奨励する「第11回競基弘(きそい もとひろ)賞」の授賞式および記念講演を2016年1月13日に執り行ないます。

競基弘賞は防災・レスキューシステムの研究開発において、学術的あるいは技術的に顕著な業績をあげた概ね40歳未満の研究者や技術者を表彰し、将来レスキュー工学を担う若手の研究者を奨励する賞です。

1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災では、6000名以上の尊い命が奪われました。震災の教訓を生かすためにも、震災を風化させないことが重要です。当機構副会長の松野文俊(京都大学教授)は当時神戸大学工学部に在職しており、指導していた神戸大学大学院博士前期課程の1年生であった競基弘氏を亡くしました。倒壊したアパートの下敷きになり23歳の若さで亡くなった彼は将来、「ドラえもんのような人を癒し助けてくれるロボットを作りたい」という夢を語っていました。夢半ばで瓦礫の中で亡くなっていった彼の遺志を継ぎ、その夢の一部でも実現し、6000人以上の亡くなられた方々を忘れないための記念として10年を経た2005年に「競基弘賞」を創設しました。また、2009年度からは「レスキューロボットコンテスト」「計測自動制御学会SI部門講演会」で講演を行った学生を対象にした「奨励賞」、さらに2010年度からはロボカップジュニアレスキューチャレンジ参加者を対象に「奨励賞」を設け、表彰活動を行っております。また、2014年度からは、5年に1度、医学部門業績賞、心理学部門業績賞の表彰を行うこととなりました。

競基弘賞は2005年4月より募金を開始し、多くの方々から深いご理解と多大なるご厚情を頂戴しております。

第11回競基弘賞は、2015年8月より公募を開始し、その中から競基弘賞選考委員会にて受賞者を決定いたしました。

また、今年度は8回目の特別賞としてレスキュー工学の発展に尽力した研究者に特別賞技術貢献賞を授与いたします。

すでに確定した受賞者に関する経歴は次ページ以降をご高覧下さいますようお願い申し上げます。

同日に授賞式と受賞者による講演を執り行いますので、ご多忙中とは存じますが、ぜひともご来場いただけますようご案内申し上げます。

問い合わせ先: 特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構 担当:大西いづみ

Email: ohnishi@rescuesystem.org URL:<http://www.rescuesystem.org>

TEL:078-641-2840 FAX:078-641-2841 携帯:090-8497-2085

第11回競基弘賞授賞式



競基弘賞選考委員会にて慎重な議をいたしました結果、下記3名の受賞者を決定いたしました事、ご報告申し上げます。

第11回競基弘賞

- ・学術業績賞 亀川 哲志 (岡山大学大学院自然科学研究科 講師)
- ・技術業績賞 木村 哲也 (長岡技術科学大学専門職大学院技術経営研究科 准教授)
- ・特別賞学術技術貢献賞 広瀬 茂男 (株式会社ハイボット取締役会長、東京工業大学名誉教授)

奨励賞受賞者について、下記の通りご報告申し上げます。

- 「レスキューロボットコンテスト奨励賞」『大工大エンジュニア』大阪工業大学 モロラボロボットプロジェクト
- 「ロボカップジュニアIRS賞」『AFG』(工藤創生、碓氷武旺、小山秀太)
- 「レスキュー工学奨励賞」『連結差動切り替え機構を有する球形ケーブル移動体の開発』市村友哉(東北大学)

競基弘賞選考委員会委員長 松野文俊

第11回競基弘賞授賞式及び記念講演

- 会期 2016年1月13日(水)13:00～
- 会場 神戸市立地域人材支援センター1階 多目的室1-1 (神戸市長田区二葉町7丁目1番18号)
http://futabasyo.jp/modules/pico/index.php?content_id=31
- 主催 特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構
- 後援 兵庫県、神戸市
- プログラム
13:00- 開式の挨拶
13:10- 来賓の挨拶
13:15- 選考過程説明 競基弘賞委員会委員長 松野文俊
13:20- 授与式(学術業績賞、技術業績賞、学術貢献賞)及び奨励賞受賞者の紹介
13:40- 受賞者の講演(特別賞)
14:40- 受賞者の講演(学術業績賞、技術業績賞)
15:40- 閉会の挨拶 競基弘賞委員会委員長 松野文俊

- * 懇親パーティー* (会費制 ¥3,500)
17:00- ホテルサンプ神戸アスタ 2階 Forest



阪神淡路大震災で亡くなられた競基弘さん
1994年3月撮影

受賞者プロフィール

学術業績賞 亀川 哲志 (岡山大学大学院自然科学研究科 講師)

受賞テーマ(講演題目):

「ヘビ型ロボットの多様な移動形態に関する研究」

ヘビ型ロボットの持つ多様な移動形態に関する研究を行い、これまでにいくつかのヘビ型ロボットを構築して、横うねり推進、ラテラルローリング推進、サイドワインディング推進、螺旋捻転運動による推進など、ヘビ型ロボットの様々な移動形態を実現してきた。特に近年では、配管に沿って移動を行うヘビ型ロボットや、障害物を利用して推進するヘビ型ロボットの研究開発を進めている。配管に沿って移動を行うヘビ型ロボットでは、螺旋捻転運動を基本として、配管の外部に巻き付いたり内部に突っ張ったりした状態で移動を行うヘビ型ロボットを実現している。また、障害物を利用して推進するヘビ型ロボットでは、反側抑制と呼ぶ反射的な振る舞いを生成するアルゴリズムを提案し、その有用性をシミュレーションと実機実験により検証している。



亀川氏 略歴

1976年7月2日 生まれ

1999年 東京工業大学工学部機械宇宙学科卒業

2004年 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了、NPO国際レスキューシステム研究機構研究員

2006年 岡山大学大学院自然科学研究科助手

2007年 岡山大学大学院自然科学研究科助教

2008年 岡山大学大学院自然科学研究科講師、現在に至る。

この間、2004年ローマ大学客員研究員、2012年カーネギーメロン大学客員研究員としてヘビ型ロボット、レスキューロボットの研究に従事。

日本機械学会、計測自動制御学会、日本ロボット学会の会員。博士(工学)

受賞者プロフィール

技術業績賞 木村 哲也 (長岡技術科学大学専門職大学院技術経営研究科 准教授)

受賞テーマ(講演題目):

「標準化活動を通じた災害対応ロボットの実用化推進」

災害対応ロボットの開発では1)現場情報の入手が困難、2)要求仕様が多样、であることが大きな課題であり、実用化の阻害要因となっている。米国では標準性能試験法(STM)を用いて性能の「見える化」を促進し、これらの課題を計っている。本受賞者はSTMの利用がシステムズエンジニアリングによる信頼性向上や、オープンイノベーションの促進と関係があることを示し、STMの普及による災害対応ロボットの実用化推進を計ってきた。また実用化の大きな課題である安全に対し、本受賞者は国際安全規格の普及活動を通じて実用化の促進に取り組んできた。これらの成果は、東日本大震災における水中ロボット探査活動、福島原発廃炉ロボット開発マネジメント、サービスロボット安全技術者育成等に応用され、標準化活動を通じた災害対応ロボットの実用化推進の先駆的好事例として評価されている。



木村氏 略歴

1967年生まれ

1990年 大阪府立大学工学部機械工学科卒業

1992年 東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻修士課程修了

1995年 東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻博士後期課程中退

1995年 東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻助手

1995年 神戸大学大学院自然科学研究科システム科学専攻助手

1998年 大阪府立大学工学部機械システム工学科助手

2001年 長岡技術科学大学機械系助教授

2006年 長岡技術科学大学専門職大学院技術経営研究科システム安全専攻准教授

2003-2004年 ダルムシュタット工科大学客員研究員

受賞者プロフィール

特別賞 学術技術貢献賞 広瀬 茂男

(株式会社ハイボット取締役会長、東京工業大学名誉教授)

略歴

1947年 東京生まれ

1976年 東京工業大学制御工学専攻博士課程修了(工学博士)

1992年 同学機械物理工学科(2000年以降機械宇宙システム専攻)教授

2013年 (株)ハイボット取締役会長、東京工業大学名誉教授 現在に至る

第1回Pioneer in Robotics and Automation Award (IEEE 1999)、第1回Award of Merit (IFTtoMM 2004)、紫綬褒章(2006)、Engelberger 賞(2009)、IEEE Robotics and Automation Award(2014) などを受賞。

長年のロボット工学ならびにレスキュー工学への多大な貢献とレスキューロボットの実用化に対する功績が高く評価された。



講演題目:

「人の真の味方となるロボット開発の進め方」

レスキューロボットに限らず、ロボットはこれからの社会に大きな変化をもたらす核心的な技術とみなされ多くの人が注目している。しかし、どのようなロボットを開発すれば真に人々の役に立つのか。どのような方面にロボットを投入してゆけば最も効率的に我々の世界を良くしてゆくことができるのか。さらに、ロボット化を逆に意図的に押し留めた方が良い分野があるとする、それはどのような分野なのか、などの基本的な問題に関しては、ロボット研究者の間でもかならずしも十分に議論されては来なかったように思われる。本講演では、レスキュー用やインフラ点検用ロボットなどを開発する過程で、私がいつも気になってきた「人の真の味方となるロボット」のあるべき姿に関する私見を述べさせて頂くことにする。

取材申込



事前登録制とさせて頂いております。
ご質問等ございましたらご遠慮なくお問い合わせ下さい。お申込は1月12日17時まで受付いたします。
問合せ先: 国際レスキューシステム研究機構 TEL:078-641-2840

■取材申込み

第11回競基弘賞授賞式 1月13日(水)13:00~

<取材申込先:FAX:078-641-2841、ohnishi@rescuesystem.org>

所属先	お名前
ご連絡先;TEL&FAX	Email

問い合わせ先: 特定非営利活動法人 国際レスキューシステム研究機構
担当: 大西 いづみ
Email:ohnishi@rescuesystem.org URL:<http://www.rescuesystem.org>
TEL:078-641-2840 FAX:078-641-2841 携帯:090-8497-2085